

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	日本大学藤沢小学校	階数	地上3F	外観/バース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	藤沢市亀井野字三屋1866-20外1	構造	RC造		
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	520 人		
気候区分	地域区分	年間使用時間	3,120 時間/年		
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2014年6月 予定	評価の実施日	2013年1月17日		
敷地面積	12,769 m ²	作成者	入江三宅設計事務所		
建築面積	2,517 m ²	確認日	2013年1月17日		
延床面積	6,021 m ²	確認者	入江三宅設計事務所		

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

建築物の取組み: 79%

上記+ 以外の: 78%

上記+: 78%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境 (敷地内): 3

LR1 エネルギー: 5

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 校舎の配置については、小学校計画東側隣地が小田急沿線なので、音環境上配慮し、沿線から離れるよう配置した。また、普通教室を南側、特別教室を東側・西側・北側に配した平面計画であるが、夏季の太陽光の直射に対する緩和としてそれぞれの外壁側には約2m巾のバルコニーを設け、教室内の温熱環境に配慮した計画とした。また、屋上に太陽光発電設備、雨水を利用をした中水設備を設けている。		
Q1 室内環境 教室等では机上平均照度690lxを確保し、スイッチは各部屋毎、点灯回数も複数にし、無駄な点灯が少なくなるよう配慮。また、建物内禁煙及び空気の流れを考慮した換気計画等、空気質環境の向上に努めている。	Q2 サービス性能 バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準(最低限)のレベルは確保し、管種等は更新性の高い設備部材を採用し、更新スペースにも配慮した計画としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 小学校計画敷地内で、全体計画上、なるべく樹木を保存すると共に、新たに高木・中木・低木を配置した。
LR1 エネルギー 太陽光発電設備(5kW発電相当)を導入し商用電力の使用量削減を進める等、建物全体のエネルギー使用量削減を図り、省エネルギー計画書の基準を大幅に下回る計画としている。	LR2 資源・マテリアル 節水性の高い衛生器具の採用及び雨水再利用設備の導入により、水資源の保護を図っている。	LR3 敷地外環境 主となる屋外照明は下方配光のものを採用し光害に配慮している。また、燃焼機器を出来るだけ抑え、騒音対策にも十分配慮した設備機器設置計画としている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される